

当科に入院した重症低血糖および重症高血糖症例についての検討

かき ば とし あき さ どう とし あき
垣 羽 寿 昭 佐 藤 利 昭

キーワード：重症低血糖，重症高血糖，高齢者，糖尿病

要 旨

重症低血糖および重症高血糖の最近の傾向を探る目的で、当科で入院加療を行った症例について検討した。対象は2004年4月から2006年6月の間に当科に入院した重症低血糖10例および重症高血糖15例。重症低血糖症例の平均年齢76歳、来院時平均血糖 27 mg/dl、平均 HbA1c 7.0%。内6例がSU薬治療中で、1例に遷延性意識障害が残った。重症高血糖症例の平均年齢72歳、来院時平均血糖 792 mg/dl、HbA1c 9.1%。内7例は脳血管障害などによる寝たきり状態で、6例に経腸栄養が行われていた。感染症、脱水を契機に発症する例が多く、経過中5例が死亡した。高齢糖尿病患者に対して薬物療法を行う場合は低血糖時の症状・対処法について本人さらには家族への十分な指導が必要である。一方、血糖コントロール不良状態においては、高血糖昏睡を避ける上で感染症や脱水に対する予防ならびに早期発見・早期治療が重要である。

はじめに

高齢化社会の到来で、SU (sulfonyleurea：スルフォニル尿素) 薬による高齢者の重症低血糖例や死亡例の増加が問題となっている¹⁾。一方、高血糖昏睡による死亡は治療法の進歩により減少しているといわれているが²⁾、高齢化と糖尿病治療の進歩による罹病年数の増加で、高齢者に多い高血糖高浸透圧症候群の割合が増加しつつあること

が予想される³⁾。今回われわれは、高齢化の進む当地において、重症低血糖および重症高血糖の最近の傾向を探る目的で、当科での経験症例について検討したので報告する。

対象および方法

対象は2004年4月1日から2006年6月30日の間に当科において入院加療を行った重症低血糖および重症高血糖症例。重症低血糖は、血糖値が50 mg/dl 以下で他人の援助を受けて受診し入院治療を要した低血糖と定義し、重症高血糖は、担当医が糖尿病学会の定めるガイドラインに基づいて